

事業実施報告書

法人名 特定非営利活動法人 AIKURU

事業名	食と職で女性を元気に！サツマイモ栽培・加工 事業
助成枠の種類	特定分野事業ネーミング枠 (浦和競馬 SDGs プロジェクト ～ジェンダー平等推進支援事業～)
1. 事業の目的	<ul style="list-style-type: none">・日本では男女平等は憲法で保障されているが、いまだに根付く「子育ては女の仕事である」との考え方により、家庭の中での子育ての担い手はほぼ女性である。農業は自分で仕事量の調整が可能のため、こどもの突発的な対応（発熱など）に左右されることなく従事することが出来る上に、土を触ることでのストレス解消効果も期待出来る。子育て中の女性も自らの意志でやりがいのある仕事を選択し、短時間勤務でも収入を得ることが出来る就労先を確保する。（専業主夫として子育てを担う男性も同様。）・地場産業（農業）を実施し、地域を活性化することで住み続けられるまちづくりを目指す。・子育て世代に安心安全な食を提供し、健康な生活を確保する。・農作物を作るだけでは発展性が見込めないため、それを加工し販売し収益を得る「6次産業」へと繋げる。
2. 事業で取り組んだ地域や社会の課題	<ul style="list-style-type: none">・女性の就労・待機児童の解消・不耕作地の有効活用・食の安全・持続性のある環境作り
3. 取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果	<p>(1) 畑の管理及びサツマイモの収穫</p> <ul style="list-style-type: none">・畑従事者；2人、延べ480時間/8か月・さつまいも収穫体験：44組 <p>(2) 農業の勉強会と収穫体験・焼芋大会</p> <ul style="list-style-type: none">・勉強会参加者：7人・収穫体験、焼き芋大会：22人 <p>(3) 焼芋作りと販売</p> <ul style="list-style-type: none">・販売60kg <p>(4) 情報紙「いるま Agri Commu」（アグリコミュ）」の発行</p> <ul style="list-style-type: none">・全6号（4月、7月、10月、1月、臨時号、収穫号） <p>(5) 冊子「畑に集う子育て世代 IMOJO のはたけ～子育て支援センターの挑戦～」発行</p>

・畑での活動をまとめた冊子、300部発行
 入間市農政課、農業委員会、子育て世帯等に配布

時期	
7月	(1) 草刈り、水やり、蔓返し (2) 取材・作成・第2号発行
8月	(1) 草刈り、水やり、蔓返し (2) 講師打合せ
9月	(1) 草刈り、水やり (2) ポスター掲示、チラシ配布、参加者募集 (3) 臨時号発行
10月	(1) 収穫 (2) 会場準備、イベント実施 (3) 焼き芋機購入・包装資材購入 (4) 取材・作成・第3号発行
11月	(1) 収穫 (2) 焼き芋作り、焼き芋販売 (3) 収穫号発行
1月	(3) 焼き芋作り、焼き芋販売、焼き芋ペーストを利用した商品開発 (4) 取材・作成・第4号発行
2月	(3) 焼き芋作り、焼き芋販売、焼き芋ペーストを利用した商品開発

○広報実績について

農業通信「アグリコミュ」は各号を法人通信に折り込み、法人拠点周辺自治体、法人会員、公民館、子育て支援センター、児童センター等に配布。

冊子「畑に集う子育て世代 IMOJO のはたけ～子育て支援センターの挑戦～」は子育て世代の他、入間市農政課、農業委員会へも配布

4. 事業実施により達成した成果の具体的な内容

- ・女性の就労
 農業に関心がある女性2名が家庭と農業の両立をしながら従事することが出来た。
- ・不耕作地の活用
 担い手が不在で休耕地となっていた畑11aをサツマイモ畑として活用することが出来た。
- ・環境保全型農業の周知による持続性のある環境づくり
 さつまいも掘り体験を通し、農業に頼らない環境保全型農業を周

	<p>知することで持続性のある環境づくりに興味を持つ人を増やすことが出来た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・焼き芋販売により今後 6 次産業へ発展させる第一歩となった。商品開発、販売には至らなかったが、ペーストを作りパン職人、菓子作り職人の女性達に開発を持ちかけた。来期に向け法人内で蒸しパン等の試作を実施。法人の実施することも食堂で振舞った。
5. 費用面での工夫	<p>農業への初めての取組で天候による不作に悩まされた。当初は、生芋での販売や加工品を使った商品開発から販売までを予定していたが、親子芋掘りと焼き芋販売のみで生芋販売や加工品までまわらなかった。そのため予定よりも収入が少なくなり法人事業費で補填した。来年度は畑を拡大し収穫量増を目指す。</p>
6. 地域社会への還元について	<p>担い手がなく不耕作地となっている畑の有効活用が、若者世代の就農への足掛かりとなり、地域に根差した就労に繋がる。多くの方が環境保全型農業に興味関心を持つことで、自分たちの住んでいる地域を守り続けよう、という意識が持てる。</p>
7. 来年度以降どう事業を継続し発展させていくか	<p>現在の畑の隣接する畑の主より、11a の不耕作地を借りて欲しいとの申し出があり、更に畑が拡大する。今年度の倍の広さの畑で、より多くの収穫を見越している。自然相手の為予想通りの収穫量とはならないが、引き続き親子芋掘り体験や焼き芋販売での収益を見込んでいる。来年度以降は、加工品の活用にも力を入れ、商品開発、販売を目指し、6 次産業へ繋げていく。</p> <p>また、拡大が決定している不耕作地の他にも、使って欲しいとの声がかかっている畑があり、更なる発展を目指してサツマイモ以外の栽培も検討中である。入間市はお茶の栽培が盛んであるが、同じ風土で育ちやすいと言われているオリーブの栽培を検討している。</p> <p>農業に興味関心を持つ女性を中心に、チームを組みこの事業を進めて行く。</p>